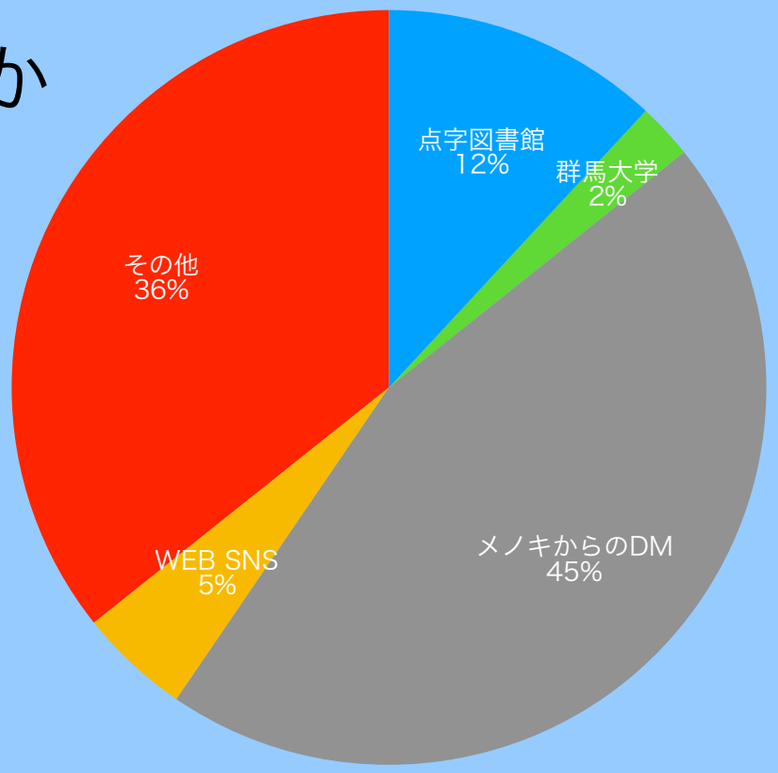
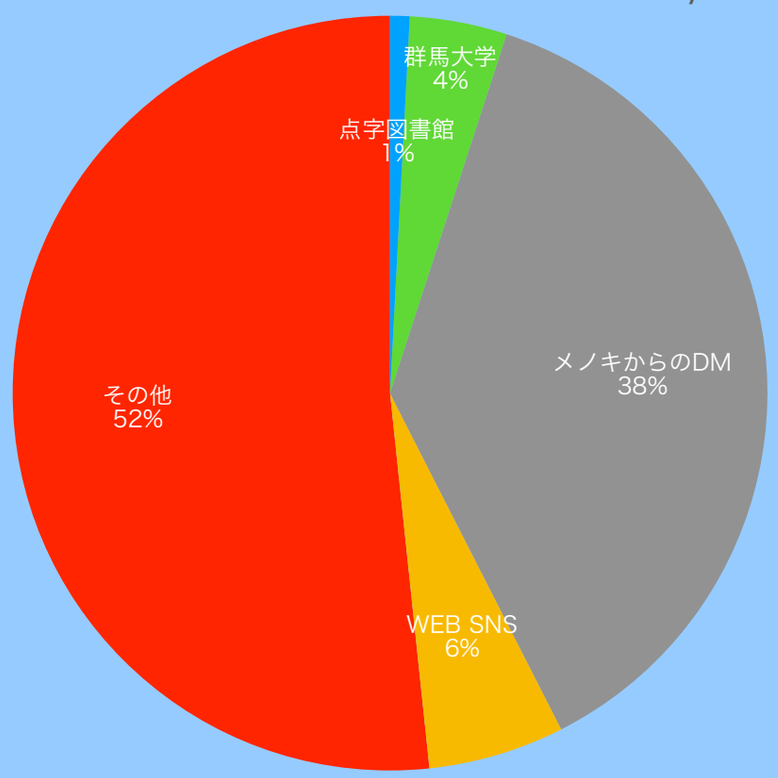
事業の目標、概要と達成状況

目標	事業細目	目標の達成状況	補足説明
視覚障害者による新たな芸術価値と芸術体験の創造	触覚で感じるための彫刻作品制作ー自身が視覚障害者で視力を失い、触覚で彫刻制作を続ける作家による彫刻制作	新たな価値と体験の創造ということで、客観的な分析が難しいが、参加者アンケートの満足度や、寄せられたメッセージを見る限り、概ねポジティブな評価を得たように思われる。とくに音楽と美術の融合では、選曲も含めかなり斬新な試みではあったが、否定的な評価は少なく、好意的に受け止めていただけ、目標を達成したと考える。	1. 左の事業細目を統合した形で、群馬県立点字図書館を主体とした視覚障害者と晴眼者のためのイベントであるまゆだまネットフェスタと地域芸術祭である中之条ビエンナーレに参加、それぞれ展示・ワークショップ・演奏会を行った。 2. 8月11日に行われたまゆだまネットフェスタでは、中之条ビエンナーレに向けての広報・告知と、そのための準備的な意味合いを持った。 3. 音楽と美術の融合は、音楽家と美術家の協働によって、音楽と一緒に振動する美術作品のオブジェが制作され、体験型音楽ワークショップの中で公開された。演奏会会場自体にも触覚で楽しむための彫刻作品が置かれ、ワークショップ内で触ったりできるようにした。 ４. また、ワークショップ・演奏会内で彫刻家の視覚を失った体験と、それを乗り越え、さまざまな感覚を使って表現をすることの喜びをテーマにした絵本の朗読と、音楽家によって作曲されたその朗読のための背景音楽が参加者全員で演奏・歌う形で披露された。 5. 展覧会では、特別支援学級の美術教育の専門家による、視覚障害の児童にどのように美術教育をするか、またその意義などについて話してもらった動画も再生し、障害者にとっての芸術の意味を考えてもらうように工夫した。
	盲学校で美術教育をしてきた、特別支援学級の美術教育の専門家のキュレーション		
	伝統音楽の演奏家でありながら、現代のさまざまなテクノロジーや音楽の新しいあり方に詳しい音楽家による、美術と音楽を融合する体験型のワークショップ・演奏会		
	地域の文化遺産である上毛かるたを、「みんなとつながる上毛かるた」として視覚障害者と晴眼者が一緒に遊べるような触察型の造形を全盲の作家が製作		
	対話型鑑賞会の開催		
地域ネットワークの構築	群馬県内の企業・大学・美術館・盲学校との連携	ネットワークの構築に関しては、関係団体が拡充し、障害の垣根を越えた連携が始まった。また、関係団体が増え、それらを起点に広報の規模も広がったことで、当初の予想を遥かに上回る動員に繋がった。 一方で、アンケートを分析すると、のちに見るように、ツアーや会場での誘導や声掛け、鑑賞補助などへの評価が非常に高く、数だけではなく、質的な人と人との結びつきがネットワーク構築には重要になることが示唆されているといえよう。 群馬県は広大で、課題も多く残るが、ひとまず目標は達成できたものと考える。	
	ローカルメディア・マスメディアによる情報の発信		
	中之条ビエンナーレによる全国規模での広報		
	点字図書館を主体とした視覚障害者ネットワークへの広報		
	メノキ自身による支援者への広報		
	ポスターによる教育機関や美術館への広報		
	高崎・前橋と中之条ビエンナーレをつなぐパスツアーの開催		
	対話型鑑賞会の開催		
	中之条での障害者芸術団体との連携（なかんじょアートミーティング）		
	展覧会・演奏会会場での丁寧な誘導・声掛け・鑑賞補助		
	「みんなとつながる上毛かるた」体験会の開催		
	大学の音楽教育課の教員と音楽家の相互演奏交流		

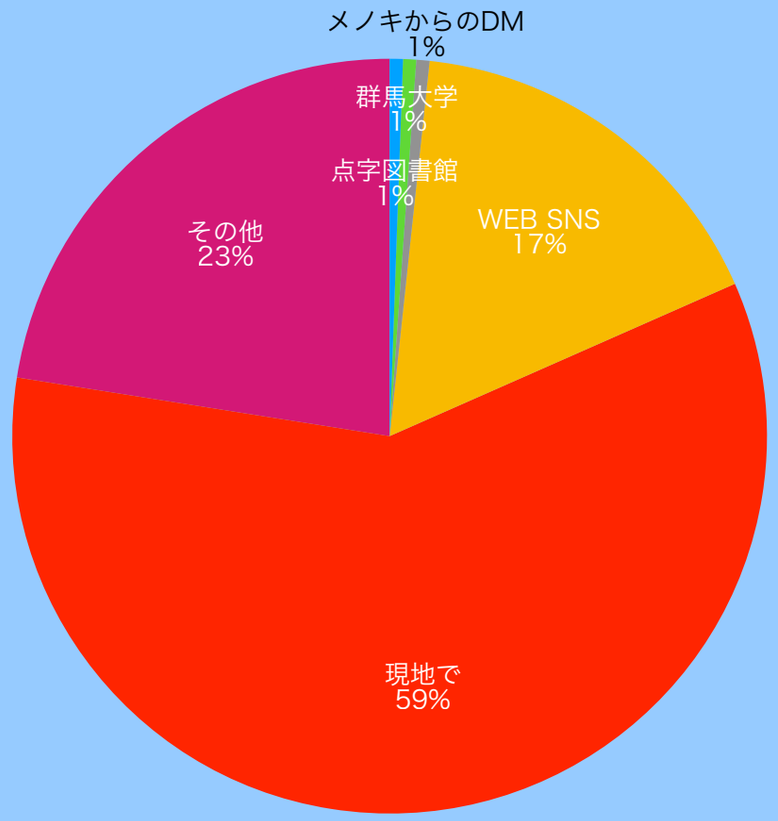
何を見て情報を知ったか



8/11　まゆだまネットフェスタ

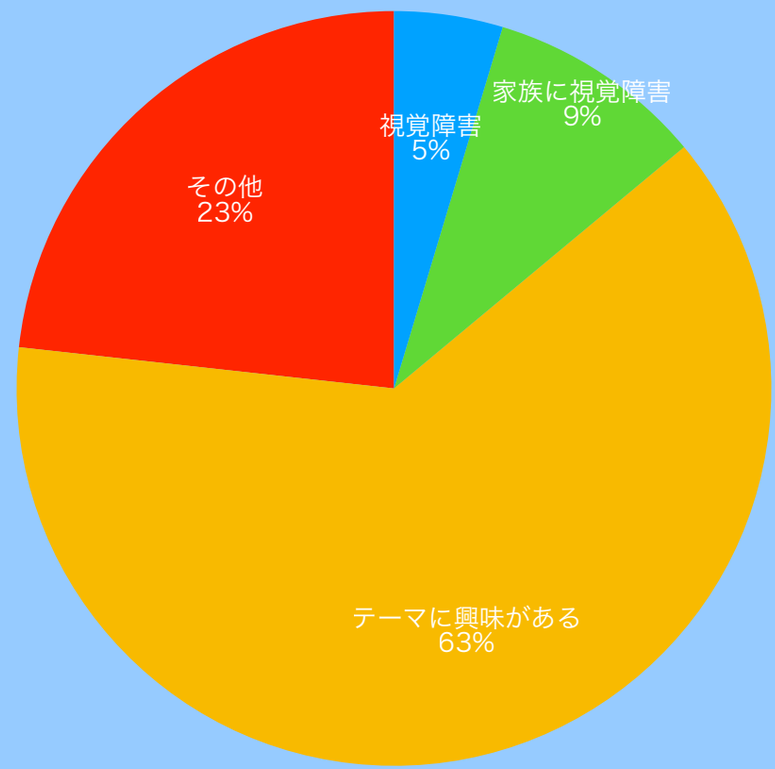


9/17-18 体験型ワークショップ演奏会

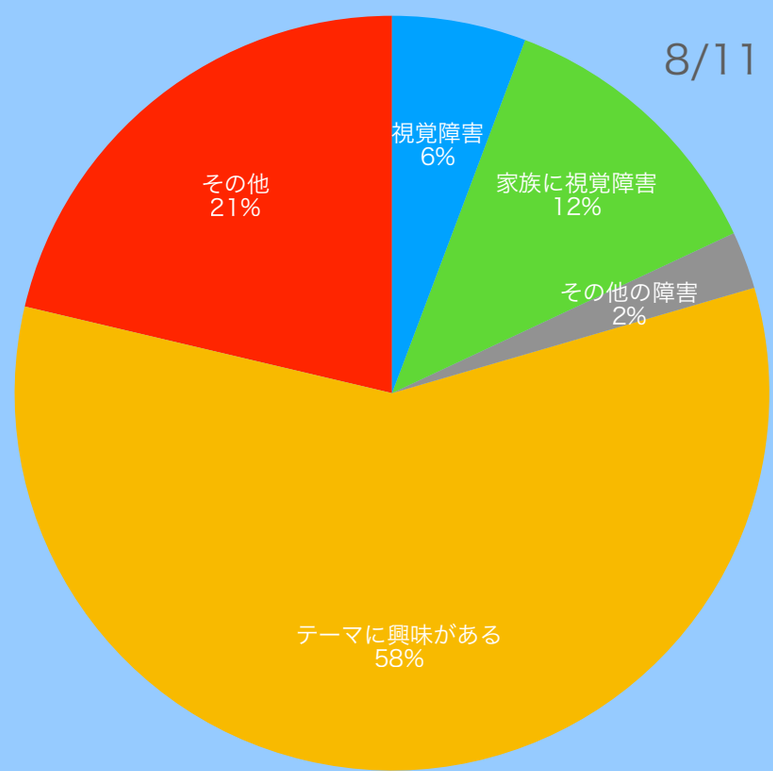


9/11-10/10　触れる彫刻展

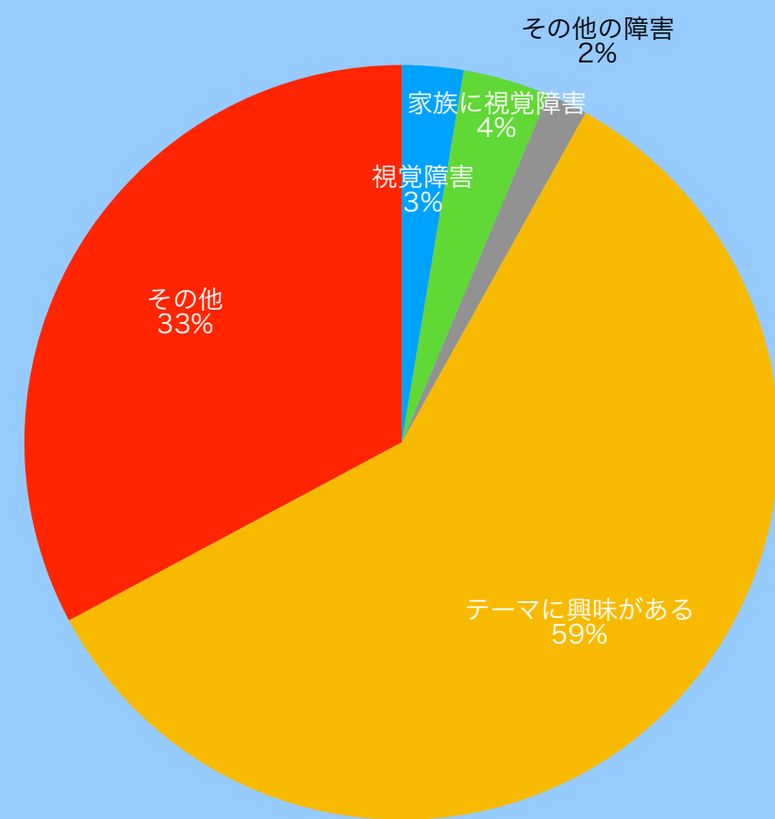
参加した理由



8/11　まゆだまネットフェスタ

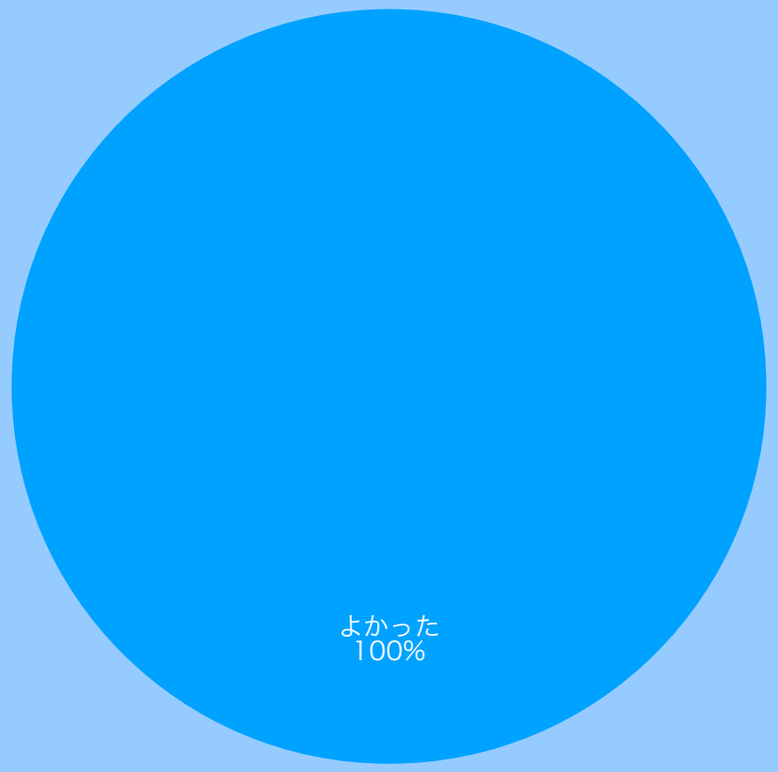


9/17-18 体験型ワークショップ演奏会

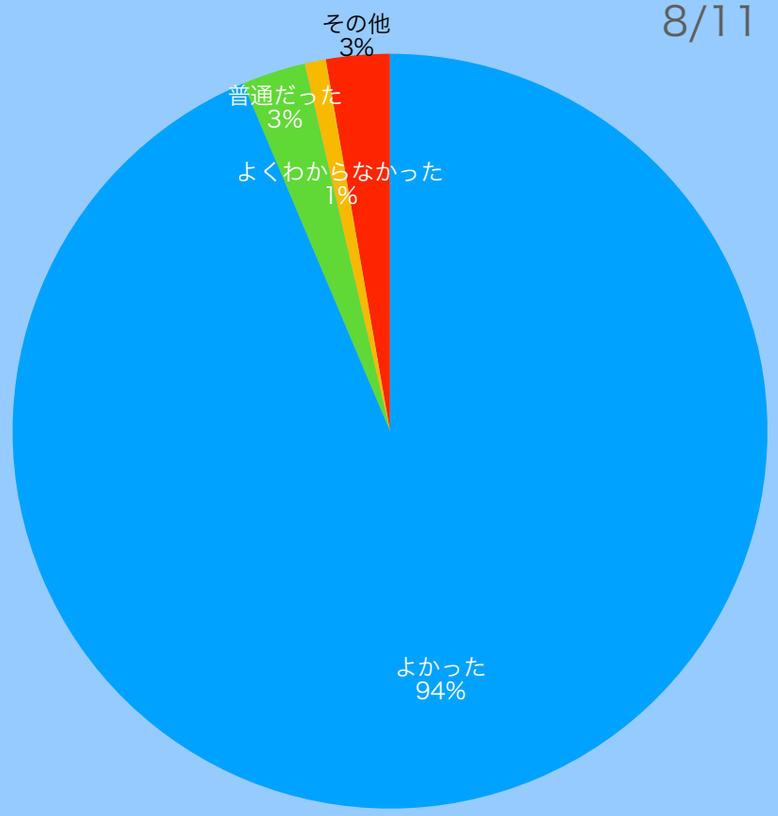


9/11-10/10　触れる彫刻展

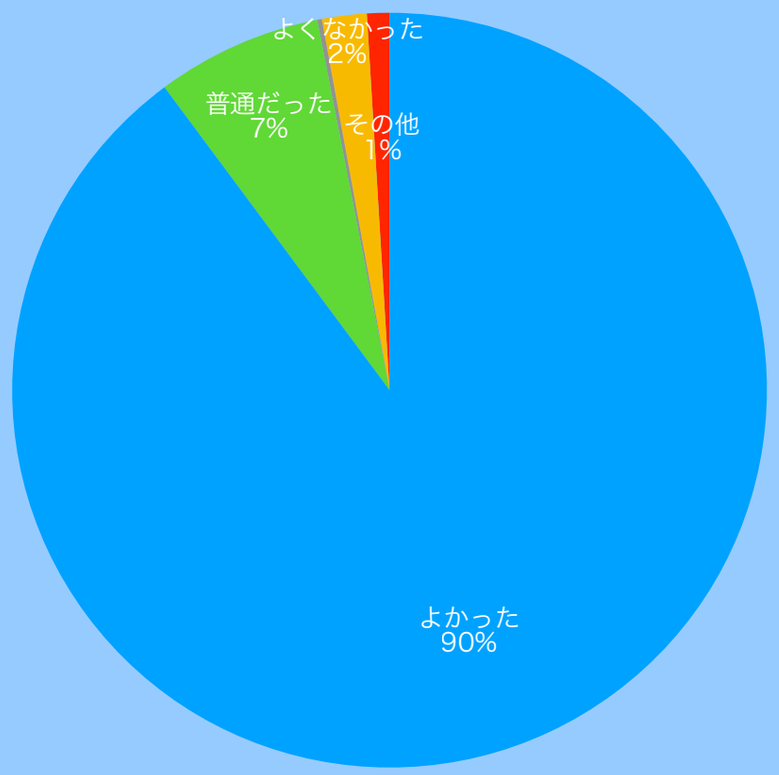
満足度



8/11　まゆだまネットフェスタ



9/17-18 体験型ワークショップ演奏会



9/11-10/10　触れる彫刻展

バスツアーについて

位置関係

- 群馬県は大きく、視覚障害者のネットワークも全域をカバーするのは難しい。今回は、都市部である高崎・前橋から、それぞれの駅を起点に集まってもらい、中之条ビエンナーレ会場をバスツアーで結んだ。往復約110km。当初は１日の予定だったが、希望が多く、２日間行った。
- バスツアーは、9/17-18日の２日、体験型演奏会・ワークショップに合わせて行われ、触れる彫刻展を中心に中之条ビエンナーレの展示も見ていただいた。
- 参加者は途中参加者（直接バスに乗らず現地で集合したものも含む）も含め、２日間で約70名となった。うち視覚障害者が13名。
- 展示会場では、視覚障害者と晴眼者とで10名ほどのグループを作り、対話型鑑賞のワークショップを開催した。ツアー参加者には美術館学芸員もいて、時間的には十分ではなかったものの、充実した体験となった。
- その後、演奏会場に移動し、体験型音楽ワークショップ・演奏会に参加していただいた。
- 群馬県社会福祉総合センターのユニバーサルバスの利用を考えたが、時間や曜日などの制限があり、使えなかったが、より多くの障害者の利用を考えるとこの利用を促進できたらいいのにと思った。群馬県に対して要望をしていきたいと思う。
- イベントを休日・祝日に設定したが、障害者にとっては介護サービスを利用するのが難しい曜日で、今回の大きな反省点である。

体験型ワークショップ演奏会、バスツアーなど・参加者の声

不思議で確かな世界が広がりました。音の一つの深みを味わいました。

アイマスクをして聞くと視覚がさえぎられるので音が鋭敏に聞こえるから

視覚・聴覚の大切さが感じとれてとてもよかったです。

体験型コンサートが楽しかった

音楽、ふれる、感じるがあってよかったです。

見えない中で音を聞くのが気持ちよかった。

体験　体感しました。

特にアイマスクをつけて触ったり聞いたりする活動が良かったです。

雅楽と現代音楽とのコラボが新鮮だった。

体験型で楽しかった。マスクなしで久しぶりに歌った。

見えない時の方が耳が働いて音がよく聞こえた気がした。

新しい感じの演奏だった。

ちょっと感動した。

初めての体験で、音の聞こえ方、見えないことで音の世界の広がりを感じました。

いろいろ工夫された演出で、目隠しをしての音を聴く、など斬新で興味深い体験ができました。

参加型・体験型のためより身近に感じ楽しめたから。

アイマスクの体験が新鮮だった

アイマスクの体験

想定していたものと少し違ったかも。悪い意味ではないです。

参加型で、仲間に入れてもらえたことがより楽しかったです。

このような演奏会は初めてなので新鮮でした。

パートナーがアイマスクをし会場で何が起きているか説明する参加する体験的なコンサートは初めてだった。パートナーも夢中になって私もうれしかった。

大変良かったです。

体験型ワークショップ演奏会、バスツアーなど・参加者の声

ワークショップもコンサートも素晴らしかったです。

身をもって普段五感を使う生活していることを実感した。

新しい試みなので。

絵本と音楽は、新しい関係を見つけたようで良かった。

体も音（響き）を聞いているのだと感じた。立体音響の中にいると宇宙空間にいるみたいな感覚になった。

非常に良い空間・時間だったと思います。

とても良かった。

とても良かった。

参加して、演奏できて楽しかった。

彫刻

とても良かった

アイマスクをしてかるた遊びをしたり、音楽鑑賞してみると、これほど視覚以外の感覚が研ぎ澄まされるのかと驚いたから。

触ることでアートを楽しむ機会は非常に少ないので貴重であったし、もっと多くの美術団体がこのような試みをしてほしい。

宇宙を実感し感動しました。涙ぐんでしまいました。これからのメノキの発展に大いなる期待をしています。

参加型のワークショップの中で一番感動しました。詩も朗読も演奏も素晴らしかった。

宇宙を感じました。

普段耳から入る音にいかに意味づけをして注意を向けることで自分を疲れさせているかよくわかる良い機会でした。音は音なのにね。

盲人の方の宇宙感が判ったように思えました。

気持ちよかった（演奏会）。

目の見えない人が人格を尊重されてアート作品を楽しんでいる姿は大変よかった。

自分が普段聞く種類の演奏ではなかったので新鮮だった。

不思議な気持ちになれた。

目、耳、空気、空間、など身体全体で聞くことができるところ。

立体的な音でした。「耳=3D」の意識が生まれました。

よかったが、睡眠不足のせいでついつい眠ってしまい、失礼だったかと反省。でも日頃なかなか眠れないのに今日は自然に眠りに落ちて本人的には気持ちよかった。楽器の良さ、何でも楽器になっちゃうと面白かった。みんなの合体した音楽も面白かった。

音が良かった。

体験型ワークショップ演奏会、バスツアーなど・参加者の声

「ミルキクアソブコンサート」というタイトルからどんなものなのか想像もつきませんでしたがこのような形で参加もして、初めての体験をして楽しかったです。

なかなか聞くことができないものを聞かせていただきありがとうございます。

普段接することのない音楽がとてもよかった。宇宙にいるようだった。

染み入るような演奏で惹き込まれました。

すごくよかった。触れるアートがじつにすばらしく、演奏会は地球の音を聞いた気がした。

見えるひとも見えない人も楽しめるかるたがとてもよかったです。

初体験の素晴らしい音たち、自分の心のホシガタミとして大切に楽しんで行きたいと思ったので

音楽で参加できたこと

観客も参加でき楽しかった

立体環境の体験は珍しく素晴らしかった。坂本龍一キズナ聞けてよかった。

音と空間の不思議な体験をした

いろんな音楽を聞けてよかった。

かなりマニアックな方面の音楽だったと思う。

身体にひびいて心地よかった。

日常を忘れさせてくれる空間と時間でした。

開始時の一連の流れの案内や内容についての説明（解説）があるとより楽しめたと感じます。（視覚障害の方の関わりなど）

今まで見たことなかったので新鮮に感じた。

新しい体験ができました。見えないものが見えるような宇宙空間にいるような不思議な感覚。

ワークショップもコンサートも素晴らしかったです！

こういったイベントは初めて参加したのですが、皆さんの一生懸命さが伝わりました。

音階でなく音の調を楽しめた。

表現は自由で良いと改めて感じた。

猫がやさしかった

普段聴くことができないことや触ることができないことができた。

音の世界を広く面白く深く感じられた。

アンケートに寄せられた今後への希望について（一部）

全員が楽しめる構成にしてもらいたい。

体験できることが不思議な感じで楽しい。

見えない人だけでなく他の障害の方々との交流ができれば良い

楽しいので続けてほしい

多くの方に体感していただきたい

もっと色々な障害者の方も参加できるものが欲しいです。

視覚障害以外の障害にも

音と一緒に体を動かすイベントも楽しそうだと思いました。

障害とアートとに音楽が加わると気楽に参加できるのでは

作品に触れることを喜んでいる人が多かったので続けてほしい。

もっと機会が増えと良い。他の県でも開催されると良い。

暗い中の演奏や動きながら他にも色々ありそうですね。

視覚障害以外の障害のある方と、一緒にアート鑑賞をする場など、色々な方に開かれたばがあると素敵だなと思いました。

首都圏でもぜひ開催してほしい。

もっと身近にするワークショップ等

触れる作品がたくさんある展覧会があると良いです。

自然の音とコラボ

参加型。少し眠くなってしまいました。

身近なアートとして感じられるようなイベントや展覧会。

めで鑑賞するだけでなく触れられる作品の展示のスペースが常設されているギャラリーや美術館がたくさんできると良いと思います。

やはり障害をお持ちのアーティストさんと直接お話しできる催しがあると良いかと思います。

彫刻と音楽がすばらしく世界が広がった。

触れる芸術も素晴らしく見えないを（判読不能）しない音楽活動（今の活動）を続けていただきたい。

障害は多様性、それがもっと普通のことになってほしい。

音楽や詩　短歌　エッセイ

触れるアート作品展がもっと開催されると良いですね。

アンケートに寄せられた今後への希望について（一部）

幼児期から大人まで、障害との壁じゃなくて（グレーゾーン）社会の中のグラデーションをフラットにインストールできる教育、生涯教育機会が身近なものとやってほしい！

ちょうかくしょうがいも

感性に訴える作品を期待してます。

体感することを大切にできるイベントだといいですね。

障害の方の作品を見せてもらってよかった。

障害を乗り越えて共に交流できるイベント

三輪さんの作品は触れてみて三輪さんの力強いメッセージとエネルギーを感じました。

色々な場所で展示会などしてほしい。

もっと気軽に参加できる機会が増えると良いと思いました。

いいと思う。

小学校教諭をしているので教えている子たち（通常級）が体で感じる校外学習やワークショップなどできたらいいと思いました。

大きなインパクトのある作品がみたいです。

もっと明るくて面白く展示しても良いかなと思いました。

五感を使って生活まで落として体験してみたい

触れる作品が楽しかった。目をつぶって触ることでより会話できたような気がしました。

一緒に遊ぶ　一緒に創るイベントがあったら楽しそうです

作者との交流があったら参加したいです。三輪さんの作品は感動しました。

このような作品を見るのは初めてで人生半ばで視力を失っていった三輪さんの悲しみはいかばかりだったでしょう。胸の締め付けられる想いです。

引きこもりの若者と関わっています。何か発表の場があっても・・・と思ったりもします。

障害と言ってもとても幅が広いので、視覚だけでないものも（障害の人）以前にはありましたね。今回のような取り組みもとても良いと思いました。

Boxの内のものをてで確認するイベントもいいと思います。

作者に直接話を聞いてみたいです。これからも続けてほしいです。

アンケートを書くのにシニアグラスが欲しい！

いわゆる「障害者」の得意な事と不得意なことを知りたい

障害と健常者が知り合うイベント

今回のように一緒に楽しめるものが素敵だと思います。

アンケートに寄せられた今後への希望について（一部）

作品を実際に制作された方とお話ししてみたい。障害を持った方との直接的な触れ合いがあればいいのにと思います。障害者は我々と違う、異なるというイメージではなく、『同じなんだ！』からスタートすると思う。

作成者の方のお話を聞きたいと思った。

情報が少ない

広報頑張ってください。

絵画展

視覚障害の人の作品をもっとみたかった

目隠しをしてものを当てるゲームや作る体験

体験できることが面白ほと思った。触るだけでないのも面白かった。

実際の作品をより多く見る機会がほしいです。ありがとうございました！

作業をされている様子を拝見したい

私も内部障害あり、見た目にはわからない。できる限りの力を役に立てたい。

作家さんと直接お話しできる機会の提供（すでにやってらっしゃいますが）

すごくたのしかったです！ありがとうございました。

アーティストである障害者の方のトークセッション

お土産コーナー

当事者もそこにいるイベント　みんなで楽しめるもの

群馬県内もっとたくさんの場所で開催されるといいですね。

色々なさまざまな人のアートがどんどん広がってほしい

説明を受けてもわかりづらいところもあったので実際にやっている動画とかあればもっとわかりやすいのではと思った。

手で触っただけでわかるアート等・・・

実際に作家さんたちと一緒にゲームしたりしたい。

実際に作品を触れるイベントがまたあれば

人の感覚とは視以外にさまざまあるとわかるような

感動した

いろんなものがあってよかった

本人がいるといいなと思った

作った本人がいたらもっと面白いと思った。

作った本人がいてもいいなと思った

ものを作ることは大切

手に触れる、音で楽しむものがある、とても楽しかったです。自身もアイマスクをして体感できたらもっと作品に没入できそうです。

今回のように参加できるもの、子供が製作できるもの

一緒にワークショップ

アンケートに寄せられた今後への希望について（一部）

広く知っていただきたい

障害のあるないとアートは関係ありません。どんどんやりましょう！

知的障害のアートも見てみたい

利用者さんと一緒に参加できるワークショップ

障害者の触ってくださいというアートは面白く感じました

このビエンナーレのような場にどんどん参加されると良いと思います。

もっと五感を感じてみたい

視覚以外にフォーカスしたのもみてみたい

パラアートフェアを（パラリンピックのように）やったら面白い。 everybody no art no life

「障害とアート」という切り口なので、少しテーマが異なるかも知れませんが、”アール・ブリュット”“アウトサイダーアート” についての特集や展覧館もあるとバリエーション豊かになってより良いなと感じました。

アウトサイダーアートに興味がある

もっと身近にあったらいいと思う。

今回のものについて作品を作った小中学生の感想知りたいと思いました。

知的障害や精神障害をお持ちの方のアートに関心があります。

障害という言葉が苦手。伝え続けていくことは大切。あなたと私は何も変わらない

本人さまに会えたりするといいなと思いました。

目が見えなくても素晴らしい作品ができる人ですね！すごい。ナニカかっこよかったです。

障害とアートのイベントは今回が初めてでしたが他の作品も見てみたいなと感じました。

大人数だと混み合ってあまり体験的なことはできないので適当な人数ですることって大切と思いました。

全身でも（足・手・体とか耳とか）でも楽しめる作品

一緒に何かを楽しめるイベントがあるといいと思います。

知る機会が多くなれば良い

またビエンナーレで開催してください。

情報の多さ！

自分も参加したい

アンケートに寄せられた現場スタッフへの感謝（一部）

他の場所より丁寧に誘導していただき感謝。私も体がきついため嬉しかった。

丁寧な対応をしてくださりよかったと思います。

最高です。

スタッフの方がすごくよかった。（説明・お話しなど）

いい間隔で説明をしてもらえてよかった

よかった

よく説明、誘導してくださった

とても丁寧でありがたかったです。

気持ちよく見ることができました。

とてもていねいな説明をしてくださいました。ありがとうございます♡

背景を知ることがアートも引き立てる

作家さんの案内が始めにあり、よく理解できました。

ご説明があり、声をかけていただいて一緒に楽しめた

案内や説明よかったです。

作品見れてよかった。

説明していただいたので深く感じられた。

とても丁寧な説明でした。

説明があってわかりやすさを感じたから

丁寧な説明。おしつけがましくない。

丁寧な案内で気持ちよく楽しめました

説明をしていただいてよく理解できたから

素敵な対応でした！！

丁寧な説明でわかりやすかった

親切に説明してくださりました

一般の人が作った作品を見れた

やさしかった

詳しく説明してもらえてよかった

係の方の説明がよかった

触れて感じることができてよかった

どのように作品に向き合うか丁寧にご案内いただけました。

わかりやすく話をしてくれてよかったです。

説明があってよかった

丁寧でよかった

入り口案内の人に説明してもらってよかった。作品の意見がわかった

親切です！

丁寧に接してくれた

触って良いのが場所がわかりやすかった

展示の意味を説明してもらって展示がよくわかった

楽しかった

説明がよかった

説明もしていただきよかったです。健常者が知ることはとても大切なことと思います

みなさまとても親切

大変わかりやすくありがたく思いました。

みなさん親切でした。

わかりやすく説明してくださいました。

問題ありません。丁寧に案内していただきました。

目が見えない人もいろんなことができるとわかった

とても親切でした。

丁寧に案内していただきました。

展示がわかりやすい

良い配置

すごく親切でした。

詳しい説明が聞けた

よく説明していただきました。

とても良い対応でした

良い人でした

いい人でした。

良い人だった

とてもよかったです。

親切に説明いただきました

とてもよかった

説明していただき楽しめました

親切に教えてくれたり案内をしてくれた

解説してもらえたのでわかりやすかった

親切でした。

問題ありませんでした。説明していただきました

親切に作品のことを教えていただきました

優しかった

よかった

丁寧に対応していただけました。他の展示も回るのに、あまり時間をさけなかったのが惜しいです。

説明していただけてわかりやすかったです

初めて知って、感じたことがあった

優しかったです

丁寧に説明を受けた

とてもよく案内をしていただきました

声をかけてもらうと参加しやすい

親切でした。

よかったです。

丁寧に説明してくれた

楽しかった

作品に触れる。カルタが素焼きで触れる　触って学習するのですね

説明してくれてありがとう

説明がありよかった

とても丁寧で親切で嬉しかったです！

親切だった

丁寧な説明をしてもらった

丁寧でした

説明していただいてより展示が楽しめました。

丁寧にご案内いただきました

わかりやすく説明してくれた。

とても丁寧に案内してくれました

見学前に説明してくれた

説明していただいてよくわかりました

色々とお話を伺えより深く楽しむことができました

親切でした

たくさんご案内の方がいたので十分です

案内が要点で良かった

親切だった

説明が詳しく親切でした

色々教えてくれて楽しかった

日常では意識しないことに気づいた

親切に案内してくれた。

事業の記録（写真・動画など）

展覧会・演奏会の記録。広報資料

メディアでの報道などのアーカイブページ

https://park.jins.com/series/jinsnotanemaki/menoki2/

https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/282011

https://www.asahigunma.com/20231006_3_menoki/

https://www3.nhk.or.jp/lnews/maebashi/20231005/1060015590.html

総括

今回、このような事業を取り組ませていただき、地域の視覚障害者の文化・芸術環境に関しての課題解決の可能性の一つを提示できたかと考える。また、取り組みに対してさまざまな声をいただき、さらにより多くの知見や学びを得たことで、今後の活動に関しても、より良いものにしていく道筋が見えたように思う。このような活動を支えていただいた日本財団に深く感謝申し上げる。

当団体が今のような活動を始めたのは、当団体の代表である三輪途道が彫刻家でありながら病で視力を失ったことに端を発しているが、代表が視覚を失いながらも表現活動を続ける上で、より広い社会的なつながりが必要とされ、その中で、当事者として視覚障害者をめぐるさまざまな環境、特に文化・芸術に関わる環境について多くの課題を発見することに至ったからである。

代表は、視覚を失うまでは、孤独な閉じた世界で自己完結型の芸術家として仕事をしてきたが、視覚を失うことによって、逆に社会に開かれ、新しいフェーズで仕事をすることになった、と語る。一方で、社会の側もここ10年ほどの間に、障害に関する考え方も変化し、SGD’sなどの動きもあって多様な個性を持つ個人として障害者を位置付けるようになってきた。こうしたいわゆる「インクルーシブ」と呼ばれる社会包摂の考えを進める上で、文化や芸術の果たす役割は非常に大きいと言える。

美術館でもこのような社会の要請から、視覚障害者のための展覧会や、視覚だけでなく、他の感覚を使うような企画展などへの試みがなされている。有名な例では、水戸芸術館と全盲の美術愛好家の白鳥健二氏による晴眼者と視覚障害者による対話型鑑賞の試みがある。

これらの取り組みは、障害をマイナスなものととらえず、新しい見方をもたらすものととらえ、美術・芸術に新しい価値を生み出そうとする。白鳥氏は先天的な視覚障害で鑑賞の側から、三輪代表は後天的な視覚障害で創作の側から、それぞれアプローチが違い、それは大きな意味を持つように思われる。白鳥氏が見えないからこその視点で、見えている人たちの鑑賞のあり方を揺さぶるという抽象的・理念的なレベルでの問題提起を行なっているのに対して、三輪は自身が創作者であることから、表現と技法の問題、視覚と触覚の問題、展示空間と作品の問題、美術館と社会の関係など、さまざまな局面での困難を解決しようと、より具体的なレベルで当事者として根源的な問いを芸術に対して投げかけているように思われる。そして、それは白鳥氏のような、鮮やかな視点の転換のようなわかりやすさは持たないが、より地道に、地域に根ざし、さまざまな団体と関係を作り、ネットワークを形成し、多くの人たちと社会を少しづつ変えようとするような現在の当団体の活動につながることになった。

総括

今回のアンケートに寄せられた声の多くに、障害の垣根を越えて、さまざまな障害の方との協働を求める声があった。また、一方で、障害という区別をせずに、芸術一般としてさまざまな表現活動を扱うべきではないか、との声もあった。どちらも今後の我々の活動を考える上で重要な指摘である。

障害者とされる人たちが社会の中で置かれている状況の持つ困難さの解決や、その困難さからくる独自の表現や、いわゆる健常者とされる人たちとは違った視点や身体的な特性だからこそ生まれる表現があり、それらを「障害者アート」としてカテゴライズし、感動を呼ぶものとして利用するような動きもあったりする。それは一面で、多くの注目を集め、資金の獲得や活動のしやすさにつながることでもあり、障害者とされる側にも有利に働くことがあるのも事実だが（我々の活動自体にもそうした側面があることも否定できないことである）、近年の、障害も個性の一つとして捉えるあり方とは相反するものでもある。私たちの今回の展示や演奏会では、あくまでそのような「可哀想な対象としての障害者」という見え方にならないように、作品・演奏のクオリティを最重視しして事業を進めてきた。

今後、障害の垣根をこえて、さまざまな「個性」を持つ表現者と関わり、新たな価値をもつ芸術活動に光を当てていくことを計画しているが、一方で障害者の問題としてさまざまな社会的な課題があることもまた事実である。そして、それは表現活動やその社会的共有とそれら課題の解決は表裏一体でもある。今回特に感じたのは人と人とのつながりの重要性である。今回寄せられた声の中で、一際多かったのが、資料にもあげたが、展示の現場にいた誘導・アテンド・鑑賞補助をした人たちへの感謝の言葉であった。そこでは、対話型の鑑賞や、インクルーシブアートコーディネーターとして期待される人材の実地研修の場にもなっていて、美術館のボランティアスタッフや美術教育専攻の学生たちが多く参加していた。我々は事前に彼らにレクチャーをし、共に障害と芸術についてさまざまな観点から新しい知識を共有していた。今回のこの事業を支える存在として彼らがいたことを特記しておきたい。

美術館鑑賞や創作活動など、芸術に関わる際にサポートが必要な人たちにどのようなサポートをしていくのか、また、その人たちに向けてどのように情報提供をしていくのか、今回の活動を通じて一番に考えさせられたのはこのことである。障害に対する豊かな知識や、さまざまな技術を応用することで、効率的なサポートも可能であろう。ただ、最終的には人の温もりの力が大きかった、というのが今回の事業を通じて感じたことである。見える人も見えない人も、その他の障害のある人もない人も、同じように一人の個人として尊重し、共に芸術の豊かさを分かち合う、そのような姿勢を持った人が芸術に関わる現場にいることこそが最も大事なことではないだろうか。